グランフィールで ピアノがもっと 楽しくなります。

グランドピアノが欲しいけど、予算が……、スペースが……。
アップライトピアノはあるのに……
その悩みは、グランフィールが解決します！

お客様から喜びの声が届いています。

ピアノを弾くのが楽しくなりました。
（鹿児島県 S 様）

発表会で、家での練習と同じように弾けたのがとても嬉しいです。
（福岡県 O 様）

聞く専門の私が、ピアノを弾いてみたいと思うほど音が綺麗になりました。
（匿名）

グランドピアノが置けなかったのであきらめていましたが、グランフィールを知って本当にびっくりしました。とても弾きやすいです。
（福岡県 S 様）

子供がコンクールで全国大会に進出できた。
（鹿児島県 T 様）

連打やトリルが綺麗に入るのがうれしいです。
（埼玉県 S 様）

自動演奏装置が付いているのですが、それで演奏しても音が抜けなくなりました。
（東京都 O 様）

お持ちのピアノにグランフィール機構を取付けられます。

世界初 国際特許!!

Granfeel®

内閣総理大臣賞受賞
日本発明振興協会会長賞受賞

形はアップライトピアノ 機能はグランドピアノ

World's First brilliant feat patented!!
Granfeel, a harmonious combination

FUJII PIANO SERVICE

基本料金 **200,000円より**
部品代、取付工賃込み、消費税別

取付期間 **2日間**
※ピアノ内部の部品を外しますので、演奏は出来ません。
※ピアノ本体は、移動しません。

お問合せ 藤井ピアノサービス
0996-25-3320
E-mail:fujiipiano@po5.synapse.ne.jp

産経新聞
平成26年(2014) 日刊25687号
6|22[日]
産業経済新聞(サンケイ)
THE SANKEI SHIMBUN
発行所 ©産業経済新聞大阪本社 2014
〒556-8660 大阪市浪速区湊町2-1-57
☎ 大阪(06)6633-1221(大代表)

新聞にも取り上げられました

一面に掲載後
大きな反響を呼んでいます

グランドピアノのタッチ実現

アップライトに取り付け

鹿児島の販売店開発

家庭で一般的なアップライト(縦型)ピアノ=写真下=に取り付けるだけでグランド(平型)ピアノ=同上=並みのタッチや音色を得られる装置を、鹿児島県薩摩川内市のピアノ販売店主が世界で初めて開発した。ピアニストを夢見て練習に励む子供たちにとって、さらなる上達が期待できるとあって、発売後4年間で300台以上が売れているといい、音楽関係者も「日本のピアノ界の底上げにつながる可能性もある」と注目している。

装置は、同市でピアノ販売店「藤井ピアノサービス」を経営し、調律師の資格を持つ藤井幸光さん(58)が開発した。プロの音楽家や音楽大生などが使うグランドピアノは弦が水平に張られた構造のため、設置するには4畳程度(約6・4平方㍍)のスペースが必要で、価格も約200万円する。弦を垂直に張って小型化したアップライトは2畳(約3・2平方㍍)あれば設置でき、価格も60万円ほどで、国内メーカーによる弦を使ったピアノの販売台数でも約8割を占める。

だが、藤井さんによると、アップライトはグランドピアノに比べて弦を打つハンマーの動きが鈍く、弱い音を連打できないなど思うように音が出せない。そのため、グランドピアノの鍵盤のタッチなどの違いによって不自然な弾き方になってしまい、音楽家に必要とされる筋肉の発達や表現力を得にくいという。

藤井さんはピアニストを夢見て練習に励む子供たちがさらなる上達を目指せるように、アップライトの改良を研究。指で押した鍵盤が元に戻り、ハンマーが弦から離れる際の動きを速めるなどバネの仕組みを取り入れた装置を取り付けることで、鍵盤のタッチや音色がグランドピアノ並みになるようにした。

ピアノを弾きたいとの思いがわき上がり、昨年末からピアノを再開した。

いまはブルグミュラーをおさらいしていますが、目下の目標はショパンの幻想即興曲を弾くことです。

次なる世界で新しい夢を描き、ピアノを楽しみたいです。

グランフィールの仕組み

アップライトピアノ 弦を水平に張る構造上、標準サイズで幅約1.5㍍、奥行き約1.8㍍と、設置に広いスペースが必要なグランドピアノに対し、弦を垂直に張って奥行きを約60㌢とコンパクトにした一般的なピアノ。英語の「直立」が名前の由来とされる。

ハンマーの動きが鈍く、弱い音を連打できないなど思うように音が出せない。そのため、グランドピアノの鍵盤のタッチなどの違いによって不自然な弾き方になってしまい、音楽家に必要とされる筋肉の発達や表現力を得にくいという。

藤井さんはピアニストを夢見て練習に励む子供たちがさらなる上達を目指せるように、アップライトの改良を研究。指で押した鍵盤が元に戻り、ハンマーが弦から離れる際の動きを速めるなどバネの仕組みを取り入れた装置を取り付けることで、鍵盤のタッチや音色がグランドピアノ並みになるようにした。

ピアニストで京都市立芸術大音楽学部の野原みどり准教授は「タッチに違和感がなく、思った通りに表現できるようになる。一人でも多く感性が鋭い子供たちに弾いてもらいたい」と、ピアニストを志望する子供たちの上達につながることを期待している。

「グランフィール」と名付けた装置は平成22年春に発売。取り付け費用も含め最低約20万円で、「ぴあの屋ドットコム」(京都市伏見区)などの販売代理店で音楽大志望者らに計300台以上売れたという。今年3月には日本発明振興協会など主催の第39回発明大賞で「日本発明振興協会会長賞」を受賞。日本、米国、中国、香港で特許も出願し、登録された。

グランドピアノの感覚と

記者さんのうちあけ話 ―― 栗井裕美子様

藤井さんの発明を知ったときには、本当に感動しました。

記事には、一人でも多く、もっともっと才能を伸ばせるように、との願いを込めました。

私自身、中学生のとき、コンクールで勝ち進むなかで、アップライトピアノの限界に本当に苦悩しました。

ストレスがたまり、それが爆発して、コンクールの後、ピアノを辞めてしまったのですが、本当にもったいないことをしました。

今回の取材で、私は、ピアノが大好きであること、生きる力を与えてくれること、素晴らしい出会い、経験をもたらしてくれることに、改めて気づきました。